

# イデックスオイルレポート ~For a month~

2022年5月2日作成 株式会社新出光

## 【月次概況】

- 第1週、週末4/1のWTI原油は、先週比14.63ドル安の99.27ドルとなりました。バイデン大統領は原油価格高騰を受け戦略石油備蓄から日量100万バレルを今後6か月間放出すると発表しました。1日には、日米欧など主要な石油消費国が加盟する国際エネルギー機関が緊急会合を開催し米国以外の加盟国が計6000万バレルの備蓄石油を追加放出することで合意しました。これを受け需給逼迫懸念が緩和され原油は売られました。
- 第2週、週末4/8のWTI原油は、先週比1.01ドル安の98.26ドルとなりました。中国最大の経済都市上海で新型コロナウイルス感染拡大に伴う都市封鎖(ロックダウン)が続き需要鈍化観測が広がり原油は売られました。
- 第3週、4/14のWTI原油は、先週比8.69ドル高の106.95ドルとなりました。ウクライナ危機を受けて米欧などが対ロシア制裁を強化すれば、国際エネルギー市場での需給逼迫が強まるとの懸念が引き続き相場を支えています。
- 第4週、週末4/22のWTI原油は、先週比4.88ドル安の102.07ドルとなりました。国際通貨基金(IMF)は今週、ロシアのウクライナ侵攻を理由に2022年の世界成長率見通しを3.6%と、1月時点から0.8ポイント下方修正しました。上海市では、新型コロナウイルスの感染拡大を受けたロックダウン(都市封鎖)が4週間近く続いています。景気回復の遅れや経済活動停滞に伴う原油需要鈍化への懸念が強まる中、原油は売られました。米連邦準備制度理事会(FRB)による大幅金利上げ観測を背景に、米長期金利が上昇しドルの先高観が台頭していることも、ドル建てで取引される原油を圧迫しています。
- 第5週、週末4/29のWTI原油は、先週比2.62ドル高の104.69ドルとなりました。上海がロックダウン(都市封鎖)され、4月下旬以降は首都北京でも感染対策が強化されており中国でのエネルギー需要の先行きに警戒感が広がっています。一方ドイツの代表団は、エネルギー資源の代替調達先の確保に十分な時間与えられるなら、ロシア産石油輸入の全面禁止に反対しない姿勢を示しました。これにより需給が一段と引き締まるとの警戒感が強まっています。

4月平均	WTI原油	101.64ドル	前月比	▲6.62ドル	為替 1ドル	126.98円	前月差	7.45円
------	-------	----------	-----	---------	--------	---------	-----	-------

日付	補助金	変動幅	変動幅
4/1~4/6	25.0	+9.0	+9.0
4/7~4/13	20.7	-4.5	-4.5
4/14~4/20	20.3	-3.0	-3.0
4/21~4/27	25.0	+4.0	+4.0
4/28~4/30	31.8	+5.0	+5.0

【単位:円/KL】

メニュー価格推移 平水湾内T/S持ち届け (サイト60日)	0.5HPP		ENEOS LS船用燃料油基準価格	
	2022年1-3月C重油決定価格	76,550	78,550	76,550(メニュー)+2,000(プレミアム)
2022年4-6月C重油仮価格	102,560	107,770	102,560(メニュー)+5,210(プレミアム)	
2022年4-6月C重油決定価格				
決定価格1-3月比				

【単位:円/KL】

内航燃料油価格推移	適合油価格	
	A重油	
2022年1-3月C重油決定価格	84,300	94,400
2022年4-6月C重油仮価格	104,200	107,400
2022年4-6月C重油決定価格		
決定価格1-3月比		

CIF価格推移	年/月	9析速報	原油CIF価格	通関CIF	為替レート	原油CIF価格
			円/kl	ドル/bbl	円/ドル	前月比
	22/3	9析速報	66,887	91.79	115.85	4,276
	22/4	最終予測	85,987	111.46	122.65	19,100
	22/5	展望	81,128	107.48	120.00	-4,859
	22/6	展望	81,193	108.02	119.50	65

## 【次世代エネルギー】

### ＜三菱商事とENEOS、国内でSAFの事業化検討＞

三菱商事とENEOSは2022年4月18日(月)、国内で持続可能な航空燃料(SAF)など次世代燃料の事業化に向け、共同検討に合意しました。ENEOSは製造技術と販売網、三菱商事は国内外の原料調達とマーケティングで、それぞれの知見を活用。SAF製造技術の成熟度や商業化までの時間軸に応じた基本戦略を作成し、バイオ原料開発からSAF製造、SAFの供給網づくりを一貫して手掛けます。

日本では、国内と海外の航空会社が日本で給油する航空燃料は年間1,200~1,300万キロリットル(kl)必要とされています。政府は2030年まで、ジェット燃料使用量の10%をSAFに置き換える目標を掲げ、必要量は120~130万klです。現在の国内航空会社によるSAF使用は1.2~1.3万kl未満と、必要量と供給量に大きな開きがあり、SAFの供給体制の整備は喫緊の課題となっています。

航空業界は、国際民間航空機関(ICAO)総会で採択された、2021年以降に二酸化炭素(CO2)排出量を増やさずに国際航空を成長する取り組みとしてSAF導入が進められています。フィンランドに本社を置き、SAF製造を手掛けるNESTE(ネステ)はシンガポール製油所でSAFを商業生産する予定です。製造されたSAFは、2023年からANAが調達し、日本発の定期便60便分で使用することも決まっています。

出典 ①<https://flyteam.jp/news/article/136427> ②<https://online.logi-biz.com/58245/>

## 【5月価格変動要因】

- 需要: 中国で新型コロナウイルス感染者が急増し、上海では1日2万人を超える感染者が出たことでロックダウンの延期を決定しました。まだ出口の見えない状況となっています。北京についても感染の拡大が懸念されておりさらなる需要減が予想されています。
- 供給: 米英加はロシア産エネルギーの禁輸を決定、その他の国々が追随するが注目されています。5月には、ロシア産原油の供給量が日量300万バレル減少すると見込まれています。OPECもロシアに配慮する形で増産ペースを上げず供給は依然としてタイトな状況です。
- 在庫: 各国の戦略石油備蓄放出である程度価格上昇は抑えられていますが、ゆくゆくは買戻しを見込んで原油の先物カーブは、期先のほうが上昇しています。また米国の原油在庫も積みあがってしかるべき時期にも関わらず低水準を維持しており7月以降のドライブシーズンに向け懸念が生じ始めています。
- リスク資産: 5月のFOMCでは、0.5%の利上げが予定されており、その後も複数回0.5%ずつ利上げが想定されています。ただしインフレや経済の動向によっては、現在の利上げの折込の可能性が剥がれ落ちる可能性もあります。
- 地政学: ロシアはウクライナ北部から東部へ矛先を変更しています。停戦協議については、ウクライナが善戦していることもあり妥結には至りそうにありません。むしろロシアの体力低下が言われ始めており今後はウクライナの防衛成功もしくは規模を縮小しての泥沼化がメインシナリオか。

ukuraina (単位: US/bbl)

	Brent	WTI
High	130	122
Average	105	100
Low	90	85

日付	国	5月経済指標カレンダー	日付	国	5月経済指標カレンダー
2	米	4月ISM製造業景況指数	17	欧	1-3月期 四半期域内総生産(GDP、改定値)
4	米	4月ADP雇用統計	17	米	4月小売売上高
4	米	4月ISM非製造業景況指数	18	欧	4月消費者物価指数(HICP、改定値)
4	米	米連邦公開市場委員会(FOMC)終了後政策金利発表	24	米	4月新築住宅販売件数
4	米	パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長定例記者会見	25	米	米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨
6	米	4月非農業部門雇用者数変化	26	米	1-3月期 四半期実質国内総生産(GDP、改定値)
6	米	4月失業率	27	米	4月個人消費支出(PCEデフレター)
6	米	4月平均時給	31	欧	5月消費者物価指数(HICP、速報値)
11	米	4月消費者物価指数(CPI)			

当レポートは、情報提供のみを目的としておりますのでお取引の判断については、御自身で行って頂くようお願い致します。